

箕面船場における文化芸能国際交流の まちづくりワークショップ

－箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアム（MICA）の発足に向けて－

中間報告 別添プレゼンテーション集

令和4年(2022年)6月10日

箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ

目次

- 大迫弘和座長
『箕面未来予想図』 P2
- 1. 岩城 あすか委員
『（公財）箕面市国際交流協会の可能性』 P12
- 2. 米田 信子委員
『大阪大学外国語学部が目指すもの』 P59
- 3. 安田 優美香委員
『語劇祭で知る世界』 P63
- 4. 阿部 一郎委員
『創造都市・MINOHを目指して』 P80
- 5. 須貝 昭子委員
『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』 P94
- 6. 小林 利彰委員
『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』 P123
- 7. 村井 淳委員
『船場西地区連合自治会のご紹介』 P159
- 8. 山口 裕委員
『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』 P191
- 9. プリティ 梨佐クリスティーン委員
『インクルーシブな社会を目指す』 P205
- 10. 吉岡 邑玲委員
『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』 P220
- 11. 森 七恵委員
『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』 . . . P253

箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくりシンポジウム

箕面未来予想図

大迫弘和

2021年7月11日

大迫弘和

日本を代表する教育者の一人。現在、武蔵野大学教育学部教授、都留文科大学特任教授、Chiyoda International School Tokyo(CHIST)学園長、神戸親和女子大学客員教授、与謝野町参与等を兼任。国際バカロレア(IB)教育の国内第一人者として知られ、文部科学省及びIB機構に協力しIBの国内での普及促進に尽力している。詩人としても活躍。谷川俊太郎氏とは深い親交がある。



東京生。小中高時代は横浜で過ごす。東京大学文学部卒。1987年-91年在英。これまで**千里国際学園中等部高等部校長/学園長(1999-2009)**、同志社国際学院校長(2011-2012)、広島女学院大学客員教授(2013-2016)、文部科学省IB日本アドバイザー委員会・IBコンソーシアム関係者協議会委員等IB関連各種委員会委員、大阪市「国際学校の今後のあり方検討会議」座長、東京都英語教育戦略会議委員等を歴任。

著書:『がっこう』(2012年 かまくら春秋社)『国際バカロレア入門—融合による教育イノベーション』(2013年 学芸みらい社)『国際バカロレアを知るために』(編著 2014年 水王舎)『アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア』(2016年 日本標準)『国際バカロレアの現在』(編著 2017年 ジーアス教育新社)『詩集 定義以前』(2017年 遊行社)『詩集 我々人間は』(2020年 Message Design Center) 等多数。2020年発刊の『詩集 我々人間は』は収益のすべてを医療従事者に寄付している。

箕面市外院3丁目在住。箕面市に住んで30年。その間**箕面市国際交流協会理事**を10年間(1999-2009年)務める。

本日の内容

§ 1 Culture&Arts

§ 2 子どもたちのために

4つの鍵の言葉

文化

芸術(芸能)

国際交流

大阪大学外国語学部

Culture (文化)

ラテン語 colere(耕す)から派生したドイツ語の Kultur や英語の culture は、本来「耕す」、「培養する」、「洗練したものにする」、「教化する」といった意味合いを持つ。人間の外部に相当するものとしての「文明」と対比される人間の精神面での向上を示す言葉として位置づけられるもの。この定義では文化は教養と言い換えることもできる。なお日本語の「文化」という語は坪内逍遙によるものとされている。

International **Culture** and Arts City, Minoh

国際文化芸術都市箕面

International exchange as a culture

文化としての国際交流

Academic as a culture

文化としての学術

【大学のある街】

International Culture, Arts and Smart City, Minoh

国際文化芸術未来都市箕面

§ 2 子どもたちのために

(心が優しくなっている)

(1) 語劇祭に箕面市内の小中生を無料招待する(文化芸能劇場を使用)

(2) ニックネームの公募

- ① 文化芸能劇場・船場生涯学習センターのニックネーム
- ② イベントのニックネーム(阪大国際フェスティバル+多民族フェスティバル=(仮称)箕面船場文化国際フェスティバル)
- ③ 応募資格 5歳+

(3) 日常的な招待 (文化芸能劇場・船場生涯学習センター・大阪大学)

(4) カリキュラム化 (「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」)

- ① 2025年大阪・関西万博の「共創パートナー」としての実証フィールド
- ② 関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター(仮称)に関わる学び

「箕面・ART・地球—すべての子どもたちのために—」

オープニング記念講演とSIS/OIS卒業生などによる芸術パフォーマンス

- 8月1日(日曜日) 17時開演 大ホール 600人招待

日本を代表する教育者の一人、大迫弘和氏（武蔵野大学教授/詩人 箕面市外院在住）が文化芸能劇場オープニング記念講演を行います。

大迫氏が1999年から2009年まで校長/学園長を務めた千里国際学園の教え子で現在世界で活躍している井藤航太さん（声楽家）植田リサさん（バイオリニスト）そして芸術総合集団"BU-TO-O-KAI"（東海林まゆ美さん主宰）が応援出演をします。

テーマは「子どもたちの幸せのために、地球の未来のために、今こそARTの心を」です。

講演と芸術パフォーマンスの融合をお楽しみください。



大迫 弘和
(元千里国際 (現関西学院千里国際) 中・
高等部校長)



井藤 航太
(声楽家)



植田 リサ
(バイオリニスト)



東海林 まゆ美
(芸術総合集団"BU-TO-O-KAI"主宰)

1.	岩城 あすか委員	
	『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2.	米田 信子委員	
	『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3.	安田 優美香委員	
	『語劇祭で知る世界』	P59
4.	阿部 一郎委員	
	『創造都市・MINOHを目指して』	P74
5.	須貝 昭子委員	
	『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P86
6.	小林 利彰委員	
	『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P113
7.	村井 淳委員	
	『船場西地区連合自治会のご紹介』	P147
8.	山口 裕委員	
	『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P177
9.	プリティ 梨佐クリスティーン委員	
	『インクルーシブな社会を目指す』	P189
10.	吉岡 邑玲委員	
	『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P203
11.	森 七恵委員	
	『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P235

(公財) 箕面市国際交流協会の可能性

**～当事者主体のコミュニティと
多様性を活かした地域づくり～**

2021年7月20日(火)

箕面船場における文化芸術・国際交流のまちづくり
ワークショップ

(公財)箕面市国際交流協会 岩城 あすか

【1】箕面市及び公益財団法人箕面市国際交流協会について



【箕面市】

- ・大阪府の北部に位置する。
人口...135,296人人(2019年10月末日現在) *うち外国人...96か国2,945人(2019年10月末日現在)

【交通移動は困難】

- ・3分の2は山間部
- ・東西に長いが、電車は南北に阪急電鉄(市の西部)、北大阪急行(市の中部)、大阪モノレール(市の東部)が走る。
- ・大阪大学が存在。彩都や箕面森町の開発で若い世代の人口が増えている。

【(公財)箕面市国際交流協会】

- ・1992年に財団法人として設立
- ・2013年より公益財団法人
- ・現在、箕面市立多文化交流センター(市立)の指定管理者として、50以上の事業を実施。



～理念～

箕面市の歴史、文化、その他の地域的特性を生かした国際交流活動を推進することにより、市民と行政の協働のもと、市民レベルの国際理解及び友好親善並びに地域における多文化共生の促進を図り、もって地域社会の国際化、人権の尊重及び世界平和の実現に寄与する。

～事業の仕組み～

- ①地域国際化活動推進事業
(例:海外事業との交流活動、子ども国際理解事業、市民活動促進事業、在住外国人コミュニティ育成事業、留学生ホームビジット、地域交流事業...)
- ②多文化共生社会推進事業
(例:外国人のための生活相談、保健・医療サポート事業、日本語教室、外国にルーツのある子どもサポート事業 など...)
- ③情報収集・発信事業
(例:多言語生活情報誌「みのおポスト」の発行、月間情報誌「めろん」の発行...)
- ④施設管理運営事業
(例:箕面市立多文化交流センター施設管理運営事業)
- ⑤国際理解のためのコミュニティ育成事業(収益事業)
(例:国際理解のための語学講座、コミュニティ・カフェ運営事業など...)

箕面市立多文化交流センターにおける事業の位置づけ



2019年度 多文化交流センター年間利用者総数(概算)

90,375名

【内訳】

図書館利用者数	95,500名
講座室など部屋の利用者数	28,587名
comm cafe来店者数	10,898名
住民票等証明書の発行取次件数	1,958件
あいあいルーム(豊川南小地区福祉会)利用者数	1,182名

※ボランティア(10代から80代まで)383名

個人賛助会員107人、個人寄付会員211人、法人会員 39団体

外国人市民に立ちはだかる3つの壁



- **言葉の壁** 社会生活の基本

褥瘡、キロメートル → 仕事、各種手続き

- **制度の壁** 移民政策の不在

氏名、在留管理制度、選挙権



- **心の壁** 文化の違い～差別

入居差別、同じ地域で暮らしているけど...

私たちのミッション

① 外国人市民の人権保障

言葉の壁、制度の壁、こころの壁に囲まれて、必要な社会資源や社会関係へのアクセスが困難となりがちな外国人市民に対して、市民ボランティアや行政、地域団体などとともにその壁を越えて、その人の**基本的人権が保障されるための支援**を進めます。

支援にあたっては、**子どもや障害者の権利、ジェンダー平等、エンパワメントの視点**を大切にし、当事者の自助的なネットワークづくりを応援します。

私たちのミッション

② 多文化共生社会の実現

国籍や言葉、文化が異なる人々が互いを尊重し、同じ地域社会の構成員として暮らすことのできる地域社会づくりを、マイノリティの声に丁寧に耳を傾けながら進めます。

そのために、行政や学校、企業、地域団体などと連携し、外国人市民の社会参加と地域での活躍を促進すると同時に、レイシャルハラスメントの防止など、多文化共生の地域社会に向けた様々な取り組みを進めます。

私たちのミッション

③ 市民参加による地域づくりの推進

地域の国際化には、**市民の参画と協働が不可欠**です。官と民の間に位置する協会は、その独自性を生かして行政と民間との協働を実現するコーディネートに努めます。

また、ボランティアや外国人市民など、関係者との**対話を重視し、市民が主体となって取り組みを展開する仕組みや文化**の構築を目指します。

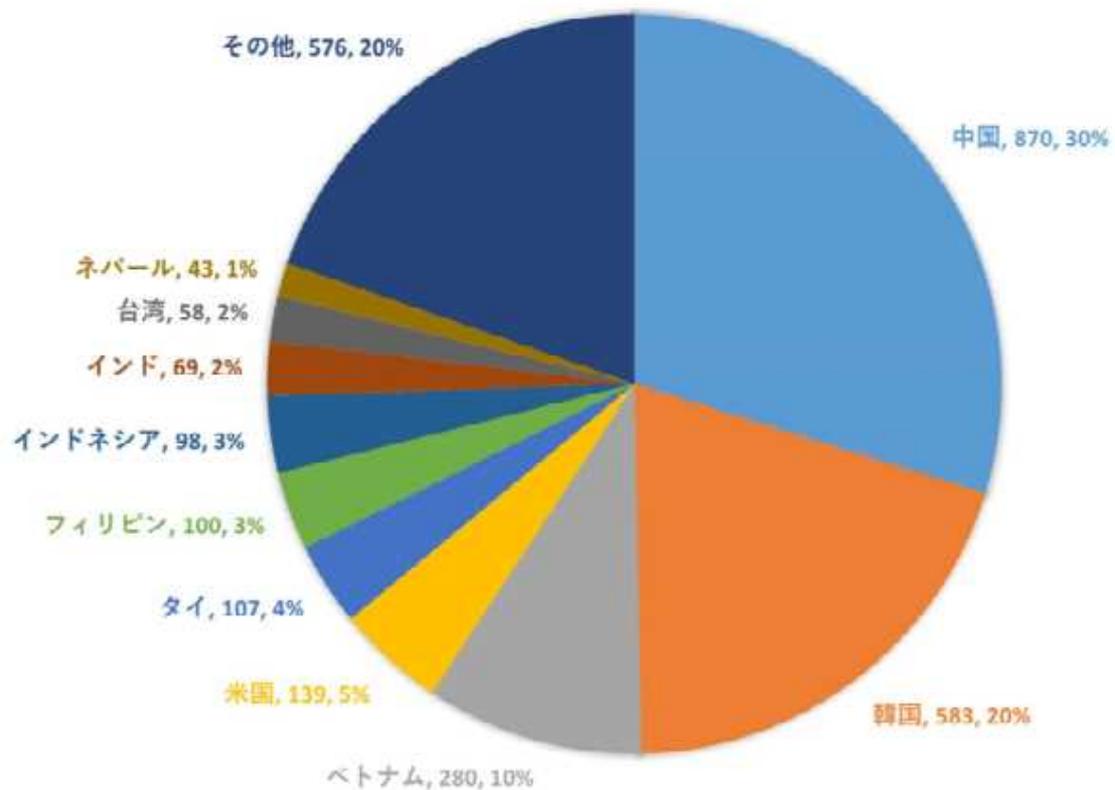


ルーツ・・・日本、韓国、朝鮮、中国、ブラジル、インド、ロシア、モンゴル
言語・・・英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、
トルコ語、ベトナム語、タイ語、ロシア語、ヒンディー語、モンゴル語、
スウェーデン語、岡山弁、薩摩弁

市内在住外国籍者数の推移



箕面市内外国籍人口（国籍別）計2,923人 2020年3月31日現在



在留資格別内訳 2020年5月末

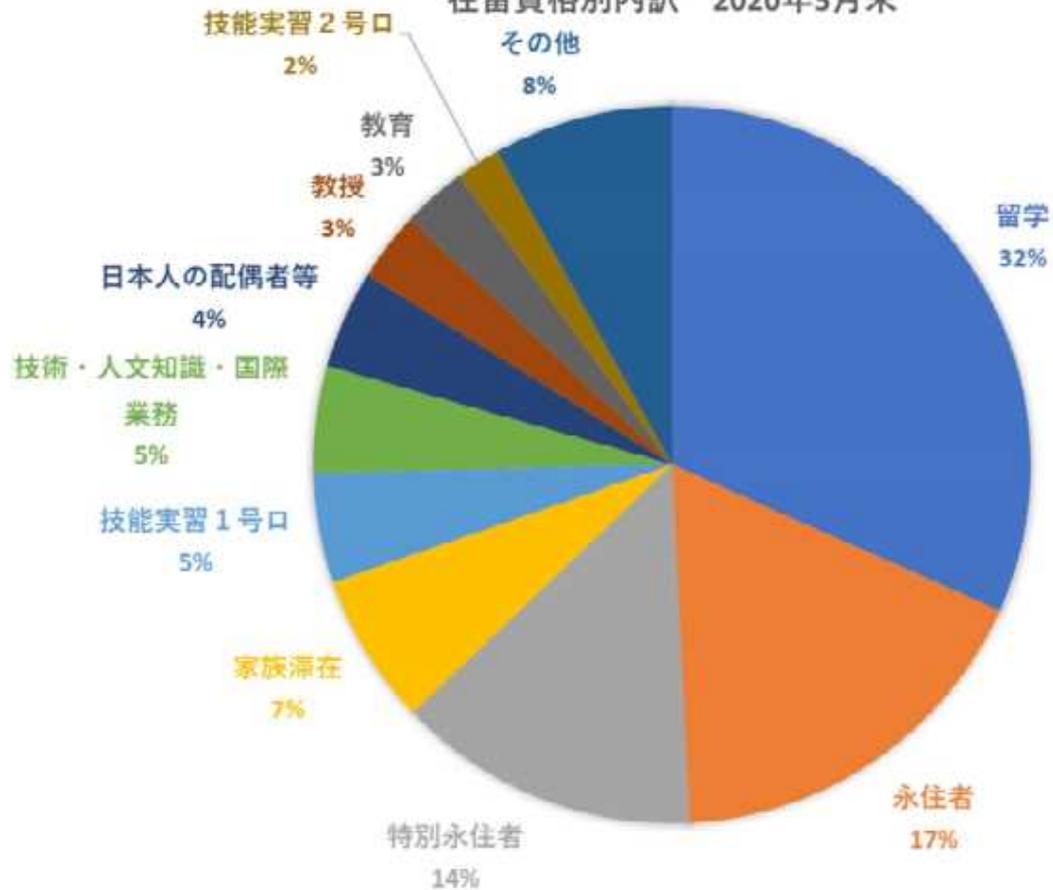
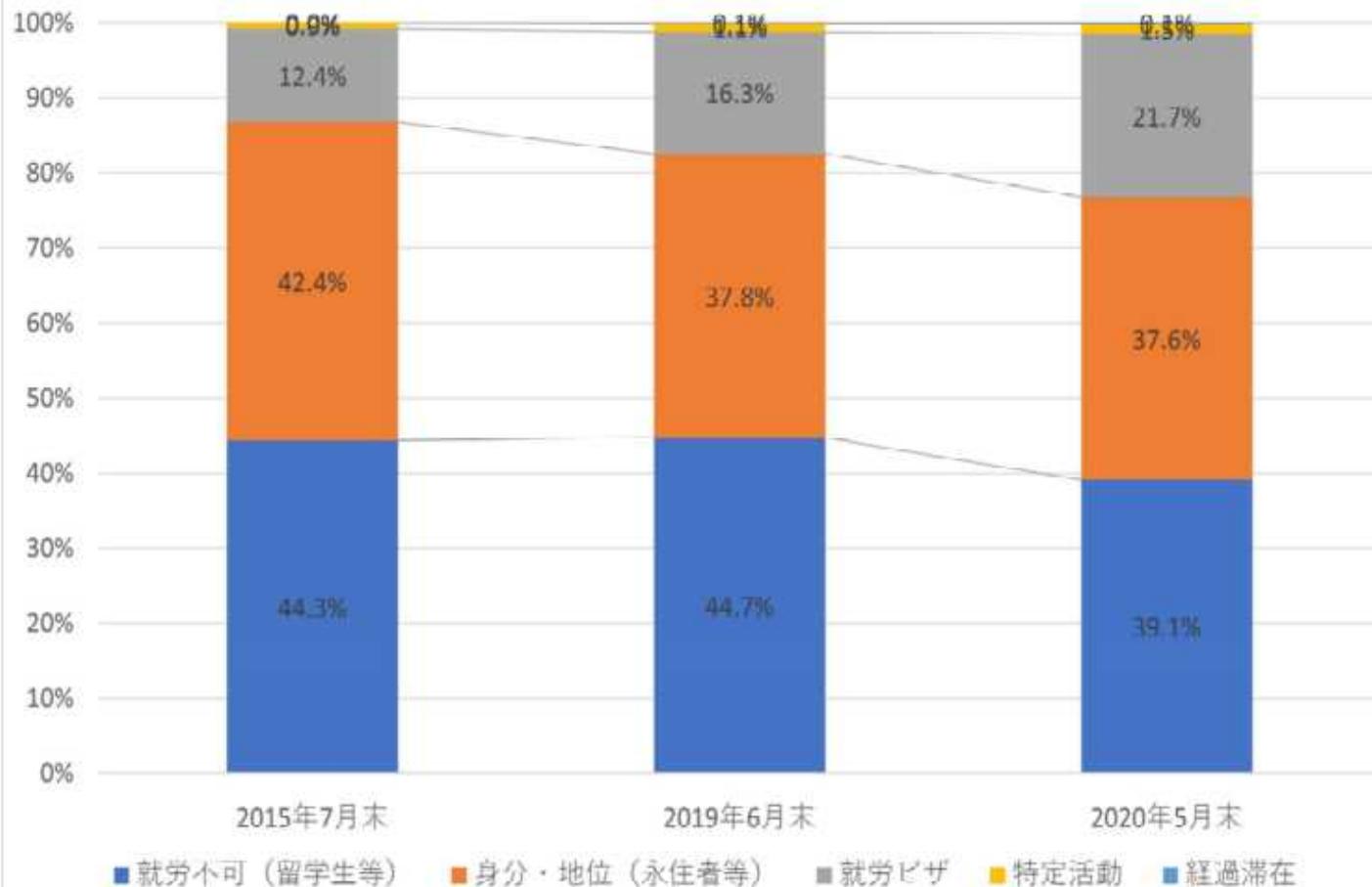


図3 在留資格区分割合の変化



共生社会をどのように築いていくのか
受入側の社会に学び、議論、変化が
求められている。

①にほんご事業



海外との交流事業



③ 多言語情報提供 & 生活相談

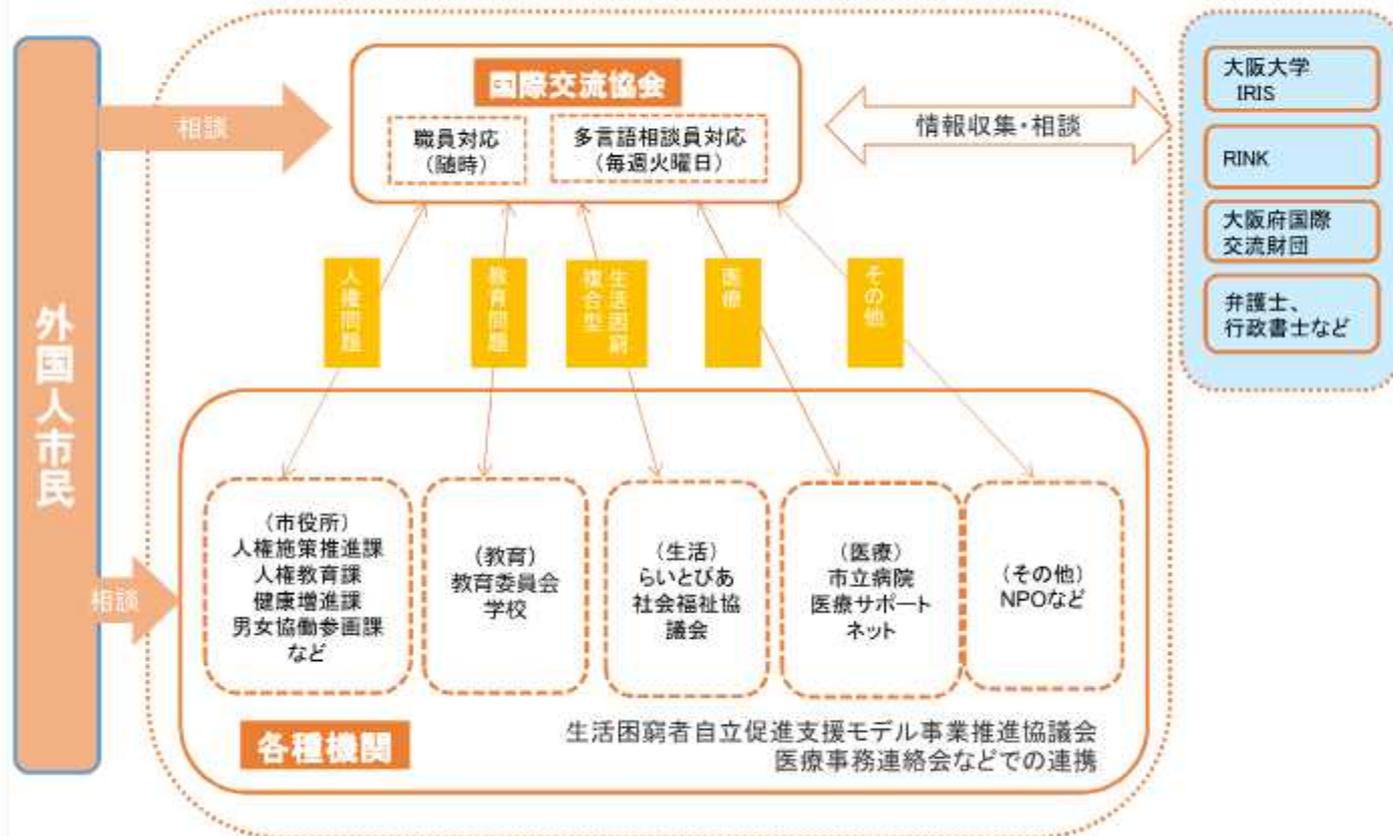
生活相談



The Minoh Post



多様な連携関係（相談）



※必要に応じて**ケース会議**を開催し、連携して相談に対応

生活相談対応件数



④外国にルーツのある子どものサポート事業

Support for children with Foreign Roots



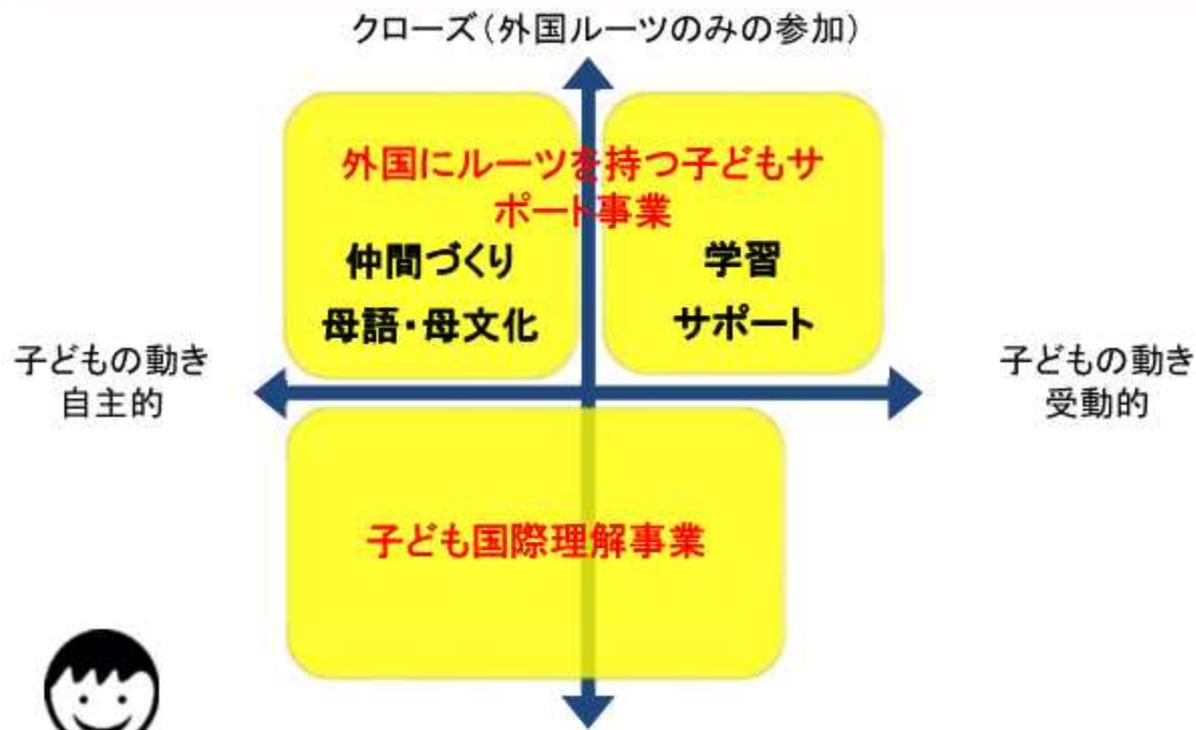
外国にルーツをもつ子どもたちの 居場所づくり&学習支援

さぽると	土曜日	10:00～11:30
子どももつと	土曜日	13:00～16:00
中高生学習サポート	水曜日ほか	17:00～20:00
★夏休みのキャンプ、遠足 など		

背景

- 子どもたちが少数で点在
- 「ちがい」が排除される／評価されない環境
⇔ 子どもたちがもっている力を発揮

子ども事業における2つの座標軸



多様な連携関係 (子ども)

行政

- ＋大阪府教委(多言語進路ガイダンス)
- ＋箕面市教委(母語&母文化保持の取り組み、
小学校多文化理解プログラムの委託)

学校

- ・小学校多文化理解プログラム
- ・DLA「対話型言語アセスメント」の実施
- ・しんどい子どものケース会議
- ・職場体験、福祉体験

通訳の紹介

(公財)箕面市国際交流協会

- ・学習支援「さぽると」
- ・居場所づくり「こどももっと」
- ・中高生サポート(平日夜間の学習支援)
- ・さんさんクラブ(就学前の子ども支援)
- ・「毛糸の会」
- ・保護者懇談会の開催

教職員研修
外国人講師の派遣

他の支援ネットワーク

- ・子どもの夢応援ネットワーク

民間(市民グループ)

- ・母語保持サークル(アウリ、Chat³)

⑤多民族フェスティバル



みんなで踊ろう！イランのダンス
@多民族フェスティバル

⑥ comm cafeの紹介

① ワンデイシェフ・システム

地域の外国人が1日オーナーに。

3回以上ボランティアをして登録。

② 分配ルール 売上の3割を協会に支払う。

③ コムカフェのめざすところ

地域で暮らす外国人市民の社会参加を促進するとともに、互いの文化を理解し合う場を提供するカフェ。

- ・地域の**外国人市民が活躍**する場
- ・地域の**多文化共生を促す**場
- ・大学・企業・NPO等との**連携**の場
- ・地域と外国人市民が**出会う**場





comm cafe の4つの顔

その1, 飲食業(コミュニティビジネス)の面

その2, 人材育成&コミュニティ形成の面

その3, 相談機能の面

その4, 多文化共生に関する啓発機能の面

成果その1（飲食店営業）

- 2013年5月開業。8年間の営業実績（40か国87名がシェフ）
- 多様な関係者（ボランティア、イベント開催時の特別ゲスト、顧客）
- 多彩なコラボイベント（50カ国100イベント 総参加者数：3,700人）
- 「グローバルコミュニティみのお」との協働（キャッサバ・しそジュースなどの商品化）
- Facebookページの「いいね！」の数：**2,710人**，
フォロワー：**3,010人**
1日の平均リーチ数370～400人
- フリマボックス（2019年度～）

2(人材育成&コミュニティづくり)

- 箕面東高校(8人), 阪大未来共創センター(2人)
- インターン(5カ国13人)
- ボランティア(18か国82人)
- シェフ達の支援(いずみさん開業、ホーさん料理教室、多国籍料理研究会、世界の料理教室
数々の就労支援&相談対応)
- 食を通じたコミュニティづくり(事業課の地域交流事業の実践も含む)
ボランティアmtg、シェフmtgでのグループワーク
- カフェをやっているうちに「使える/伝わる日本語」が増える
=日本語能力の向上
(厨房の現場はそれぞれのレベルに応じた日本語で会話を
するから)

3(相談機能)

- 書類記入の手伝い、学校関連の行事、家庭の悩み、愚痴、メニューのアドバイス、生活の悩み全般
- 数々の就労支援&相談(12名が就職または開業)
- 子ども関連(日本での教育、学校のシステム、ママ友の付き合いなど)、仕事の悩み、子どもとの言語や文化の違いなどから抱く不安感に寄り添い、それぞれのスタッフが自らの経験からアドバイスしている。

「悩みがあっても言う場がないけど、キッチンでは気軽に自然に、緊張せずに話ができる。」(シェフ)

＝シェフが抱えている胸の内を引き出せる傾聴力

4 (啓発機能)

- 出講依頼多数。(クレア、阪大、立教大、名古屋市国際交流センター、ワンワールドフェスティバル、岡山県国際交流協会、ボーダレスハウス、ナレッジサロンetc.)
- メディアから多数の取材。(NHKおはよう日本・NHK WORLD・よーいどん・ちちんぷいぷい、キャスト・ココイロ・朝日・読売・毎日・日経・産経・BIG ISSUE・あまから手帖・Richer(リシエ) etc)
- 東京や島根など、遠方からも店に来るお客さんがいる。全国的に知られている。
- **ヘビーユーザー**(毎週必ず来る人)も多数。
- ボランティアとして、相談事業に来ているしんどい人を受け入れている。**賄い、就労支援、日本語支援**
- 地域交流とのコラボ(色々なコミュニティがつけられている)。MAFGAの他の事業の宣伝もしている。

世界に一つの店としてのこだわり、視点

- ○国や背景をみるのではなく、個人を先にみる。
(対等な運営をめざすための数々の仕掛けがあるが、時に「敷居が高い」と言われている。)日本風の接客にそまらない。
- 外国人にとっては、日本化しなくても受け入れられる場。
- 世界中のどこの国のどんな人も受け入れ、苦労を共有する場。
- 自分をとりまく社会への疑問、不満、怒りを共生のエネルギーに変える場。
- 英語を大事にするのではなく、言語のヒエラルキー(階層構造)に挑戦、言語のバリアフリー化をめざす。
- 「やさしい日本語」は使うが、相手にとって一番コミュニケーションが取れる言語を大切にする。(「やさしい日本語」のみで思考停止しない)
- マイクロアグレッション(日常生活に潜む小さな攻撃性)や無意識の偏見に気づき、自らをふりかえりながらコミュニケーションする場。

⑦外国人コミュニティ育成事業

1. チーム・モイ



2. チーム・シカモ



3. 母語サークル(直営ではない外国人コミュニティ支援の取り組み)

スペイン語・ポルトガル語
母語クラブ チャチャチャ



参加者内訳 (2020現在)

Brazil	7	16	23
Japan	12	0	12
Mexico	2	2	4
Peru	3	3	6
Cuba	1	2	3
Portugal	1	2	3
South Africa	1	0	1
Puerto Rico	1	0	1
Spain	1	2	3
Columbia	1	0	1
Srilanka	1	0	1
Bolivia	1	2	3

おとな	こども	TOTAL
32	29	61

毎月第4土曜日に活動中!

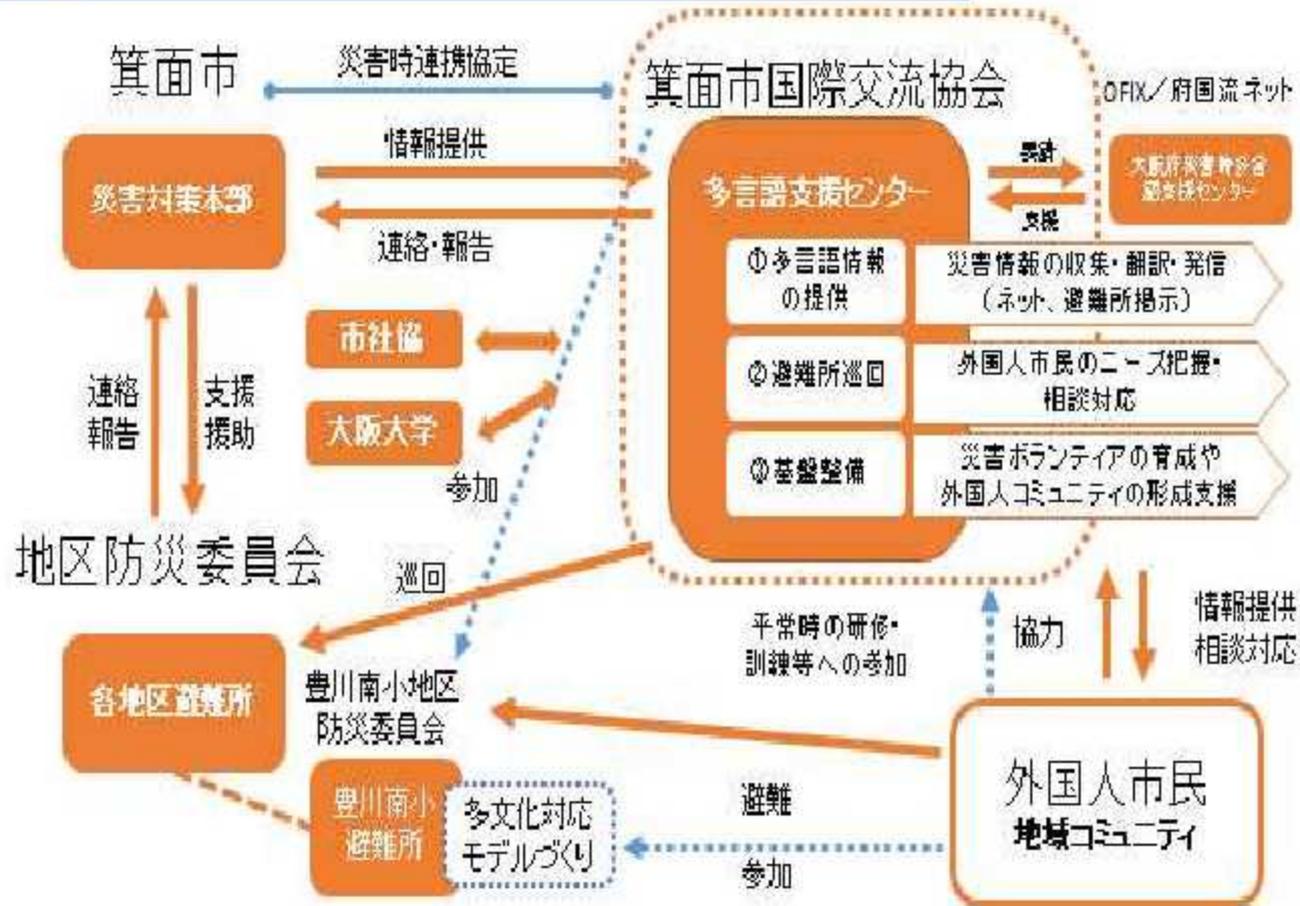
※他に韓国語やモンゴル語の母語グループも。

⑧就労支援の取り組み

(a)朝の語学カフェ(ワンコイン×4回、月謝式少人数クラス)
ロシア語、ベンガル語、スペイン語、ベトナム語、ペルシア語...



⑨防災体制づくり(連携イメージ)



技能実習生と情報過疎

OSAKA GAS

Contact us

About Us

Press Release

International
Energy Business

Investors

Sustainability

Home > Residential Customers > Safety > If you are experiencing an outage

Residential Customers

- Starting Service
- Moving Home
- Stopping Service
- Payment
- Products
- Inspection
- Safety**

If you are experiencing an outage

⚠ If you are experiencing an outage

The red light on your gas meter blinks when the gas supply is turned off in the following events.

1. An earthquake larger than a seismic intensity of 5 on the Japanese seismic scale
2. A large amount of gas flow
3. A decrease in gas pressure
4. A continuous stable gas flow for many hours



If gas does not come out, there is a possibility of a gas leak. If you smell gas, close the valve and [contact us immediately \(Gas Leak Emergency Number\)](#).



外国人防災コミュニティの育成(予定)

- 1年目(2019年度): 防災セミナーの開催、基盤整備
- 2年目(2020年度): 防災知識を身につける研修の実施
外国人コミュニティと防災リーダーの役割
箕面市で想定される災害とその対応
HUG(避難所運営ゲーム)
避難所見学、地区防災委員会との交流
救命救急講習、被災時の行動計画づくり等
- 3年目(2021年度): (コミュニティ内の人たちへ)情報の発信、
自主防災訓練、防災リーダークラブの結成
- 4年目(2022年度)以降: 外国人防災会議の開催
外国人防災リーダー(災害時の安否確認や避難所応援(巡回))
国際交流協会(研修とリーダー養成、フォロー)
文化国際室(リーダーの認定、防災会議の開催)
市民安全政策室(研修の開催、地域防災計画とのリンク)

⑩阪大外国語学部とのコラボ(2021.7～)



MAFGA

(公財) 箕面市国際交流協会

Minoh Association For Global Awareness

大阪大学箕面キャンパス
MAFGAサテライト

キャンパス プラス
= Campus+

学生・若者と地域がつながる居場所

「ひとこま」



a 3rd SPACE

学生・若者と地域がつながる居場所
「ひとこま」

【活動内容】

学生・若者と地域がつながる居場所「ひとこま」を週2回開催。学生・若者が進行役として地域の団体と連携しながら場を運営。イベント提案/企画から実現までチャレンジする過程そのものが居場所となり、参加者においても身近に大学や地域とつながれる場を提供する。

日時：毎週 水曜日/木曜日 11:00～14:00

場所：大阪大学箕面新キャンパス 3Fエントランス

費用：無料

スタッフ：コーディネーター3名+職員1～2名

※企画例：地域団体の活動紹介、ブッククラブ、ボードゲームでつながる、世界のお茶販売、世界のインスタントラーメン販売、コムカフェランチ販売など



EFFECTS

期待する効果

- 地域と学生・若者のつながりが深まる
- 学生・若者が地域リソースを活用しやすくなる
- 多様な価値観の人がつながる

大切にしている／したいこと

- 互いに学び合う姿勢、理解者 & 次代の育成。
- **双方向**の交流や協働の取り組みを。
国ではなく人間どうしの交流を。脱一方的、脱一過性...
- とともに地域づくりを担う一員として。
マイノリティ当事者が、自らどうするかを、常に話し合う
マジョリティ側とは、一緒に苦労しあえる関係づくり。

あきらめない、折れない心が肝心。

連携のためのキーワード

- マイノリティ当事者の参画により、既存の価値観を転換。

外国人市民、子ども、高齢者、低所得者etc...

文化は高いところ→低いところへ流れるのではなく、インディペンデントに存在する中で蓄えられる「濃い」ところ→「うすい」ところへ流れるのでは？

このグループでどんなテーマ性を掲げていくか？
メンバーの皆さんと共有していきたい。

コメント

- サポートが必要な人たちのために基礎的なサポート（基礎支援と名称）は外せないが、さらにそれらの人たちに人生の豊かさ、潤いを提供するためにはどのような方法があるか？
- 素晴らしいMAFGAの活動の「限界」は何であったかを共有することはヒントになりそう。
- 異文化の中での生活体験があり、その中で価値観・人生観の転換があったような人が、次のステージを創造するキーパーソンに相応しいと感じた。
- 大阪府の国際部から問い合わせがあったときにも「MAFGAではそういうことをすでにやっているようです」と伝えたが、MAFGAの活動も含めて「箕面市から発信する」ことに力を入れてはどうか？
- 大阪大学（あるいは外国語学部）と共同でできることは多くありそう。教員に余裕がないこと、様々な手続きや制限があることはネックになりそうではあるが、（岩城さんのプレゼンの中でMAFGAは箕面キャンパスのサテライトとあったが、むしろ）箕面キャンパスにMAFGAのサテライトのようなものをつくることはできないか？
- MAFGAをTranslanguagingの実践の場にできないか？
- 箕面市民ではないので直接的な関わりは個人的には無いかも知れない。また当方は、団地組合事務局で、組合組織というものはそもそも組合員の為の組織であり、メンバー（組合員）以外を対象に物事を為す組織ではないので、強いて上げれば組合員企業の雇用（正規・非正規）で、外国人の就労支援事業との関係で、何か出来る事がないか、と言うところか。
- 船場西地区に住居を構える人々は、自分たちの利害について発言することはあっても異文化の人達と触れ合い、交流する機会はほとんど見られません。したがって、今後は一人ひとりの住民が異文化に接し、身の回りのルール、習慣といった日本の文化を外国人にお伝えすることにより、まずは異文化交流に慣れることからスタートする必要があるかと思います。
- 「自治会活動の国際化」というテーマについても早晚、取組を急ぐ必要があるかもしれません。
- どんな人でも、生きている上で必要な「食」に関して国際交流協会の「comm Cafe」事業は、大きな強みであり魅力になっています。ここに関わる市民の巻き込みが国際交流協会にとって大きな力になると感じています。
- 多様な外国人市民の感性やアイデアを集められるのも国際交流協会の強みだと思います。異文化だからこそその発見や提案は社会を変える重要な視点です。
- 「comm cafe」「ひとこま」の二つの活動は是非大学生として積極的に参加したい。ただ私だけかもしれないが今回資料に目を通すまでそういった取り組みがなされていることを知らなかった。せっかく素敵な企画なのでもっと大学生にもこういった活動があるということを知ってもらえたらと思う。そのために学生の私は何ができるか、夏休み期間、私の発表までに何か案を出したいと思う

コメント

- すでに始めている船場での事業「ひとこま」では、阪大生をいかに巻き込んでいくかが鍵となってくると思いますが、地域の見守りや防災という「今」の課題を上手に絡めて、たとえば魅力的な食に関するイベント企画のコンペや、アイデア募集など、このワークショップで広がっているゆるやかなネットワークを活用して、団体や人と相互協力の関係を上手に活かすことが、国際交流協会のめざす社会につながっていくと思います。イベントなどわかり易い事業の協力体制、ボランティアの共通登録など、できることからスタートすることが次へのステップになると思います。
- 箕面船場の「文化芸能国際交流都市」とは、一体どのような概念（ex. 内発的発展、外発的発展）を内包するまちづくりなのか、その手法として文化や芸術、国際交流をどのように活用するのか、船場での成果を箕面市全体、または近隣の諸地域に波及させるにはどうすればいいのか、次のステップに進むには、解決すべき課題は山積みしています。
- ワorkshopでの議論の組み立てやプロセスの案を、早い段階で提示することが重要だと考えます。
- 外国人／ミックスに対する固定観念を払拭するためにも、徐々に「国際交流」から「共存共栄」に変わっていく必要があり、そのような意識の変化に資する取り組みを増やしていければと思います。日本社会の中で様々な人種・国籍・文化が当たり前となるように、次世代の意識を変えていくことが重要だと思います（既に変わりつつある面もあると思いますが）。そのためには、①外国人が居場所（コミュニティー）を見つけ、安定した生活ができるようになることと、②子供が幼い時から様々な文化に触れ、異なる文化が共存していることが当たり前であるような風景に慣れることが重要であると考えます。
- 箕面市国際交流協会の活動が多岐にわたることや行政や学校、市民グループなどとの多様な連携をしておられることを知り、船場における文化芸能国際交流のまちづくりのよいモデルになりうる、また、これらの繋がりを使って活動ができる可能性。
- 様々な国や地域の日・フェスタを開き、その中にコンサート・ライブ・ミニ講座等の音楽文化を入れながら総合的に文化交流ができるような「気軽に楽しむコンサート」等を継続していく。
- 子どもたちに向けた様々な取り組みや体験の中に、絵本や音楽を通じて0歳から遊び感覚で自然に多文化に触れる機会を作り、子どもたちを育む。
- 大阪北部地震の時に豊川南小に外国人（留学生）の避難が集中した件は、箕面市にも詳細確認し、大阪大学や、小野原の防災士・小原不二夫氏からもお聞きしました。国際交流協会もハラル食品などで支援されたのも承知していますが、留学生とは普段からのコミュニティ作りが大切と感じています。「ここで生まれ、育つ子ども達にとって、ここが故郷」を、基本コンセプトとしている。住民参加に繋がる情報の提供と、隠れている人材の発掘を行う活動を行っていく。（竹網氏も同じ経験を、45年前にフランクフルトでインド人グループ、ルーミアの女性と2回も道を聞かれて面喰った覚えがあります。）
- リピーターが多いイベントも多いということで、その点は素晴らしいですが、他の国や文化に新しく興味を持ってもらう方法も模索する必要があると思いました。

目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253

大阪大学外国語学部がめざすもの

米田信子（大阪大学 言語文化研究科・外国語学部）

1. 外国語学部のモットー

Let Language be Your Wings to the World. (言葉を使って世界へはばたく)

Culture through Language, Language through Culture.

(言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶ)

2. 活動・イベントの例

① 外国語学部

- ・ソンスリー多文化サロンの留学生と遊ぶ
- ・夏まつり
- ・芸術
- ・民間市民連携講座
- ・国際フェスティバル

② 専攻語

- ・専攻語地域出身の留学生や関西在住の方々との交流会
- ・専攻語地域のイベント

③ 社会学連携

- ・外国にルーツを持つ中・高校生のサポート

3. 筑前キャンパスと外国語学部：卒業生のことば

・「筑前キャンパスは、私を見ても誰も振り返らない初めての場所だった。」

→ いるんな人がいることがあたりまえ

・「外国語大学・外国語学部の意義というのは、オリンピックに向けてボランティアを多数養成することなどであるはずはなく、世の中に強烈に存在する、悪意のある偏見や差別を取り払える人たちを世に送ることに尽きるんじゃないかと思う。」

→ 言語を学ぶだけでなく、言語を通してより大きなものを学んでいる

4. 今後の可能性と課題

- ・MAFGAとの連携・・・まずは「いるんな人がいることがあたりまえ」を波及させる
- ・Diversity & Inclusion
- ・「地域に生き世界に伸びる大学」

* ただし、教員の多忙、授業外の学生招来の見直し、期待と現実のズレ、といった課題も

コメント

- 会議でも指摘があったがMAFGAとの連携、その連携をプラットフォームにしなが、全体的に繋がりのある「箕面市としてのササラ型文化芸術国際交流事業」の姿が描けるのではないか。
- 「『英語が話せること』≠『国際人であること』」について真の国際教育を早い段階から実施することが、箕面市の基礎を創ると考える。それと関連して今回示された様々な企画の学校教育現場（日常的な）での実施の可能性の模索。
- 大阪大学外国語学部と箕面市国際交流協会が中心となり、周辺の市民や関係組織との連携を深めていくことは、船場のまちづくりには欠かせない構図だと思います。そのための接点をつくること、またその接点が参加者にとって魅力的なものであることが必要条件であり、ハード面で一番中心に立つ大学が、どれだけ地域や周辺組織と手を組むことが出来るのかが鍵だと思います。そのためには、国際交流協会等の協力と連携で少しずつでも形にしていくことが肝心で、異文化交流という仕掛けが有効だと思います。1つは「食」というテーマ。イベント企画やアイデア募集など、市民や学生を巻き込んだ形の事業展開が理想ですが、課題とする教員の多忙、授業外の学生拘束の規制など、個々に負担がかからない方策が必要です。
- 当日の感想でも申し上げたが、『大阪大学外国語学部』は第1回プレゼンのMAFGAと非常に似た活動を行っている団体だと思う。逆に言えば、箕面市において『国際交流・多文化共生』に関して組織として事業(活動)を行っている主な組織が『MAFGA』と『大阪大学外国語学部』と思われる。当然、他にもNPO法人や個人で『国際交流・多文化共生』に関する活動をされている方は、大勢いるとは思いますが、やはり活動規模などに限界があると思われ、箕面市が文化芸術国際交流都市になる事を目指す為には、この2つの団体の活動をベースに何が出来るか、何を如何していくのが最適なのかを議論し、膨らませていく事によって、何が必要なか見えてくるのではないだろうか。
- 船場生涯学習センターと外国語学部の連携がとれればと思いますが、生涯学習センターは大阪大学の社会連携の部署が担当されていて、外国語学部との直接的なかわりはありません。（利用者として訪れてくれる学生さんはいますが。）まだ出来たばかりでいろんな試行錯誤の中、さまざまな制限や課題がありますが、お互いに効果的に働ける形を見つけられたらと思います。そのためにも、大学の組織的な動き方を今回知ることができたことがとても良かったです。
- 大阪大学外国語学部が船場に移転したことで、箕面船場でも「いろんな人がいることがあたりまえ」と思える環境が広がればいいなと思いました。
- 大阪大学箕面キャンパスのイベントを船場の地域住民に知ってもらい、参加してもらうことで、外国語や外国人がより身近な存在となっていくのではないかと思います。
- ◎米田先生のお話にあった「地域に生き世界に伸びる大学」
◎西尾総長の言われる「グローバル」
◎夏まつり実行委員会のスローガン「地域交流、校内交流、国際交流」社学共創の輪が広がる事。
アウトリーチの場として生涯学習センター、図書館、船場デッキを利用していきたい。
(エキスポシティの阪大ラボ開催など)

コメント

- やはり、今回のワークショップ参加メンバーによる、各自のニーズや困りごと、できることなどの貸し借りを可視化できる「地域通貨ワークショップ」を一通りプレゼンを終えたら実施したいです。そこで出た意見をもとに、いくつかワーキンググループを組織し、事業化案を考案する。その後このチーム全体で共有し、市へ提案することが、最も皆さんの知見が活かされる方法だと感じるからです。今回、米田さんのプレゼンをうかがって考えたコラボ案は、①「ビジネスと人権」を考慮した就職応援事業(当協会是有料職業紹介のライセンスをとっているため)②シェアリングエコノミーの研究と実践(いろいろな地域資源を地域や国内外とシェアできるようなモデルをつくる)③五感にうったえる地域づくり(数々のセミナーやイベントが可能になるので、アート、音楽(世界のストリート音楽や民族音楽ワークショップなど)、スポーツ(カポエイラや太極拳、インドのヨガなど)、料理(世界のスパイスを日替わりで楽しめるテイクアウトランチなど)など、世代や言語、国籍のちがいを超えて色々な「生身」の人間が交流することにより、IT化の時代において、あえてアナログな身体性を刺激する拠点をつくることの意味が大きいと感じました。
- より市民との距離の近い大学の学部として市民を巻き込み、市民への働きかけを広げていただけたらと期待しているが、今は先生方も多忙であり、学生の皆さんも様々な拘束があることを伺い、大学だけで出来ることは限定されている現状があると察する。大学だけでは出来ないことを市民と協同で創出していく。どのような形・方法があるのか、模索していきたい。
- 北大阪急行延伸で新駅が開業すれば駅前に国立大学キャンパス・膨大な蔵書を持つ図書館があることになる。これは全国的にみても類がないほどのシチュエーション。この文化的創造につながる価値を活かさない手はない。
- 今後の可能性と課題の中で、目指したいこととして
 - (1) 「特別」を無くす
 - (2) 「いろんな人がいるのが当たり前」を波及させるというご説明がありました。このうち前段の「特別を無くす」という言葉を額面通りに理解して良いのか？逆に「特別」を生かすことの必要性はないのでしょうか？普段の自治会活動の中で直面する課題と合わせて考えさせられる言葉でした。
- 船場に大阪大学の外国語学部が移転したことによって、これまでの大学と異なるオープンなスペース(ピロティなど)によって様々な化学反応的を起こすだろうと期待する。偶発的な出会いが新しい文化を生み、多様な人が自然に交流するまちを目指したい。そのための空間の活用方法など、大学やMAFGAなどと一緒に企画したい。箕面船場まちづくり協議会子育て分科会で小学生以上の子どもたちが主人公になる「子供の都市」イベントを企画中。大学生(メンターの役割)の窓口を教えていただきたい。中高生も楽しめる箕面船場3大イベント「国際フェスタ」「語劇祭」「子供の都市」にしてほしい。
- リピーターが多いイベントも多いということで、その点は素晴らしいですが、他の国や文化に新しく興味を持ってもらう方法も模索する必要があると思いました。

目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253

語劇祭で知る世界

2021年9月28日（火）

箕面船場における文化芸術・国際交流のまちづくりワークショップ

2021年度語劇祭実行委員会委員長 安田優美香

本日お話しさせていただくこと

- ①現在取り組んでいること
- ②取り組みを通じて課題と感ずること、必要だと思ふこと
- ③それを踏まえて今後船場地区へ期待すること、具体的な事業やイベントの提案など

①現在取り組んでいること

- 語劇祭：11月27日（土）、28日（日）開催予定
- @COM3号館3階





語劇祭本番の様子

語劇祭

- 当日のタイムスケジュールなど詳細については
- 語劇祭実行委員会公式Instagramアカウント、Twitterアカウントにて情報を流す予定です

-

Instagram ↓



Twitter ↓



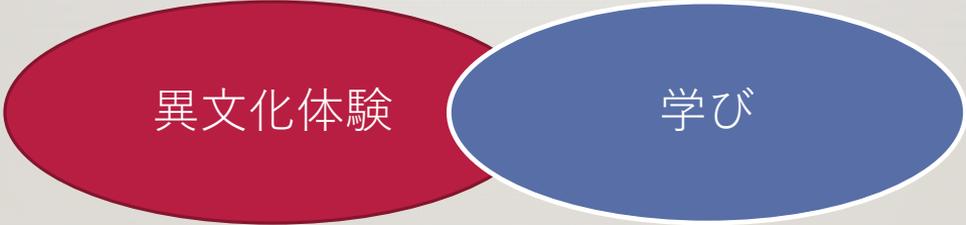
27日	
10:00-11:00	・スウェーデン語〈映像〉 「死神ラジオ」(52分)
11:00-11:10	入れ替え時間
11:10-11:50	・デンマーク語 「アナと雪の女王～家族の思い出～ Olafs Frost Eventyr」(40分)
11:50-12:00	入れ替え時間
12:00-12:20	・スペイン語 「オオカミと四匹の子山羊」(20分)
12:20-12:30	入れ替え時間
12:30-13:10	・ウルドゥー語 「Analkari」(40分)
13:10-13:20	入れ替え時間
13:20-14:50	・中国語 「白蛇伝」(90分)
14:50-15:00	入れ替え時間
15:00-15:25	・イタリア語 「Cavalleria rusticana」(25分)
15:25-15:35	入れ替え時間
15:35-16:15	・ヒンディー語 「भोलाराम का जीव」(40分)
16:15-16:25	入れ替え時間
16:25-16:55	・モンゴル語 「хичээл(授業)」(30分)
16:55-17:05	入れ替え時間
17:05-17:35	・インドネシア語 「Timun Mas」(30分)

28日	
10:00-10:50	・タイ語 「Bad Genius」(50分)
10:50-11:00	入れ替え時間
11:00-11:40	・ハンガリー語 「anyám első süteménye」(40分)
11:40-11:50	入れ替え時間
11:50-12:10	・アラビア語 「أريد أن أقتل」(20分)
12:10-12:20	入れ替え時間
12:20-13:00	・ロシア語 「Каменный цветок 石の花」 (40分程度)
13:00-13:10	入れ替え時間
13:10-13:40	・スワヒリ語 「漁師と魔人」「アブヌ瓦斯」(30分)
13:40-13:50	入れ替え時間
13:50-14:15	・ドイツ語 「Eine kleine königsreich」(25分)
14:15-14:25	入れ替え時間
14:25-14:55	・フランス語 「レ・ミゼラブル Les Misérables」(20-30分)
14:55-15:05	入れ替え時間
15:05-15:35	・ベトナム語 「Tâm Cám」(30分)
15:35-15:45	入れ替え時間
15:45-16:25	・ペルシア語 「結婚」(40分)
16:25-16:35	入れ替え時間
16:35-17:05	・ポルトガル語 「Charlie e a fábrica de chocolate」(30分)

※変更の可能性
あり

語劇祭の意義

- 様々な国の言語・文化に触れることができる
- 授業外でも専攻語を学ぶことができる



異文化体験

学び

その他 大阪大学での大きなイベント

- いちよう祭 (@豊中キャンパス)
- 夏まつり (@箕面キャンパス)
- 語劇祭 (@箕面キャンパス)
- まちかね祭 (@豊中キャンパス)

※今年度はキャンパス移転を記念して国際フェスティバルが箕面キャンパスで開催されます☺

国際フェスティバルについて

- 10月2日（土）、10月3日（日）に新箕面キャンパスで開催される予定
- 専攻語団体、外国語学部公認団体、全学公認団体など様々な団体が参加
- 語劇祭実行委員会も昨年の映像を国際フェスティバルの一企画として上映させていただきます

The logo for the Language Festival 2021. It features the large Japanese characters '語劇祭' (Gokugekisaï) in white on a blue background. Below the characters, it says 'OSAKA UNIVERSITY' and '2021'. There are small yellow and blue dots and a book icon.

2021年度箕面国際フェスティバル 館内企画
語劇祭上映会
語劇祭実行委員会

開催日 2021.10/2～10/3
場所 520講義室

10月2日	10月3日
12：30～13：00 『レ・ミゼラブル』 (フランス語専攻)	11：00～11：20 『長ぐつをはいた猫』 (フィリピン語専攻)
13：10～13：50 『飛ぶ教室』 (ドイツ語専攻)	11：30～11：45 『カロシーニャの物語』 (ポルトガル語専攻)
14：00～14：20 『自己防衛』 (スペイン語専攻)	11：55～13：00 『アンデルセン物語』 (デンマーク語専攻)
14：30～15：00 『カヴァレリア・ルスティカーナ』 (イタリア語専攻)	13：10～13：30 『忸利天に米を売りに行った人たち』 (ビルマ語専攻)
15：10～15：50 『愛しのゴースト』 (タイ語専攻)	13：40～14：00 『ボーラーラームの魂』 (ヒンディー語専攻)
16：10～16：30 『王さまと王女』 (インドネシア語専攻)	14：10～15：10 『アブーキールとアブーシールの物語』 (アラビア語専攻)
16：40～17：30 『かもめ』 (ロシア語専攻)	15：20～15：40 『タムとカム』 (ベトナム語専攻)
17：30～17：45 『引っ越し』 (ペルシア語専攻)	15：50～16：50 『死神ラジオ』 (スウェーデン語専攻)
	17：00～17：30 『アブヌワスの話』 (スワヒリ語専攻)

②課題と感ずること⇒必要だと感ずること

- I 企画・運営側として感ずること

- 大学との連携が十分にできていない
- 自由に動かせない
- 地域住民と一緒に作り上げる企画があまりない
- 何から始めていけばいいのか分からない
- ⇒専用の窓口、学外での活動場所、イベント企画・運営の知識、体験

②課題と感ずること⇒必要だと感ずること

- II 企画参加者として感ずること

- そもそもイベントを知らない
- →イベント宣伝の機会が少ない

- ⇒広報の機会、場を増やす

③それを踏まえて今後船場地区へ期待すること

- 学外での活動場所
- 専門の窓口、相談場所
- イベント企画・運営の知識を得る機会、体験
- 広報の協力

～具体的な事業やイベントの提案など～

- ①語劇祭を地域住民と一緒に
- ②外国語挨拶講座
- ③海外料理体験講座
- ④ハロウィン祭り
- ⑤クリスマスマーケット

コメント

- 箕面市、あるいは今回のワークショップに参加している委員の皆さんが所属している諸団体が学生のイベントに対して「後援」「協賛」等の関係を持つことは可能か。内容的な参加に合わせ、一定の寄付等も含め。そのような形で地元と結びついた学祭は今のところ聞いたことがない。
- 学校教育現場（日常的な）での実施の可能性の模索。
- 語劇祭の開催を、より多くの市民の方に周知してもらって、外国語学部だけでなく、市民の語劇祭にしていくことが当面の目標になると思います。そのために、日頃から地域との接点を持ち語劇祭の意義や内容などをアピールすることが大切です。各外国語の劇の様子や日頃のメンバーの活動の様子などを伝える媒体があるとより効果的だと思います。また、今後さらなるネットワークの広がりを念頭に入れて活動するならば、このワークショップの場は各メンバーの協力を引き出すいい機会になると思います。
- ご本人が言われていた様に、大学の課外活動で行われていることの全てを知っている訳ではない、逆に知らない事の方が多い、とのことから分かる様に、やはり個人単位では限界があり、相応の成果を挙げる為には、規模も必要で組織として考え、活動していく必要がある。ただし、実際に参加し活動するのは一人ひとりであり、どの様にしたら一人ひとりが認識し易く、参加し易いかなど様々な人の意見も取り入れて組み立てていく必要もある。
- 「大学・学生⇄地域」でお互いの情報が行き交う仕組みがしっかりできると随分かわり方も変わると思います。また、こういった会議の場で面識が出来れば、広報物を手に取った時の感じ方も違います。当財団も若い世代の皆さんとのつながりを求めています、なかなかうまくはいきません。大学宛てにチラシを送っていても学生の皆さんに届いているか、魅力的な紙面、企画ができていないか、皆さんの顔を思い浮かべてもう一步踏み込むことができると思います。
- 船場の新駅スペース（地下改札を出たところ）に、簡単な舞台設備をつくり、簡易ライブや劇の練習ができるようにする。そのスペースは、地域団体やNPO、大学生には減免するなど、格安で借りられるようにする。語劇祭に関する会場使用料は、大阪大学外国語学部が予算化する語劇祭の財源から支払う。そのためには、舞台スペースや簡単な照明装置の設定が必要になると思います。
- 大学の本来の目的が教育・研究であることや「大学」という組織にかかる制限等を理解してもらいながら、かつ積極的に、いかに地域コミュニティにコミットしていくことができるか。

コメント

- 箕面キャンパスの「いろんな人がいることがあたりまえ」を波及させていく。そのためには具体的に何ができるのかを検討する。
- MAFGAと具体的な協力、協働の方法を考える。
- 全体的な規制の風潮の中、逸脱しない範囲で個性的な方法を考え出して実行していく方策をみつけていきたいものだ。学校とのパイプをより太く密接にすることと同時に市民社会との結びつきを強め、より広い広報、イベントの新しい方向性など次のステップを踏み出していくことも重要。若い後輩たちにもし何か力になれるならと思っている。
- 語劇祭の企画・運営を通じて安田委員からいくつかの課題が提示されました。
 - ・会場のCOM3号館は学生が自由に使える状態ではない。
 - ・大学との連携が十分にできていない。（学校側の窓口をはっきりさせて欲しい。）
 - ・地域住民と一緒に作り上げる企画があまりない。
 - ・何から始めていけばいいの分からない。等々といった赤裸々なお考えを披露していただき、その率直な姿勢に感動しました。当自治会としてもイベントの企画、広報活動その他の面で今後ご協力できれば・・・と考えております。
- 語劇祭の運営にあたり学生が実際に課題と感じていることについて、大学・地域からどのようにサポートができるかを具体的に考え、チャンネルを作っておくことが重要だと思います。そのようなチャンネルを作り体制を整えておくことで、他のイベント運営にも活かせると思います。
- すぐにできることとしては、広報により力を入れ、地域住民に更に関心を持ってもらう方法を探るべきでないかと思いました。